

東京歌会（第五十二回）

平成二十九年二月十六日（木）、会場・文京シビックセンター三階A会議室。詠草は各二首十二首。出席者五名（市川茂子、大石久美、小野澤繁雄、松井淑子、丸山弘子）。

お迎へが来るまで元気でゐませうと母を励ます整形外科医

布宮慈子

お迎へ、でそんな年齢でもあるのか。云ってくれる、というか失礼（無神経）なようにも響くが、整形外科医なのでやや間接か。医師と母、介護者であるような作者と登場するのは三人。ありそうなやりとり、よくわかる（歌）ということになった。

草を刈るひとと目があひほ、笑めり土手に二人と川にせきれい

中川禮子

目があひほ、だから草を刈るひとは一人。土手に二人、とある二人にはじぶん（作者）が含まれると読む。が、草を刈るひとが二人とならないか、二人を外すことにしたら、と。三句、ほ、笑めり、で女性の作者としれる。歌はやや複雑だが、面白さがある。

「ま（ん）ず咲く」から来ているというマンサクの花のたよりがそこにきている 小野澤繁雄

マンサクはしらないという人、しっている人で半々。上句（東北弁）も含めて、面白い。早春の花には黄色が多いが、これも黄色（シナマンサク）。

夫の一周忌むかへる友の体重の戻りしを聞き共によろこぶ

丸山弘子

よろこぶ、に少し異論あり。肯定感がでていればいいので、笑まいぬ、でどうか。長い看病かその後の嘆きかで体重をおとしてしまったのだろうか。

別名はかがり火花のシクラメン去年よりいまだ咲きつぎており

市川茂子

かがり火花^{ひばな}、と読むという。別名は、なるほどというところ。去年^{こぞ}よりいまだ、からシクラメンの水遣りのむつかしさが話題になった。歌はこの通りとも。

トランプ氏の映像消してこの年も穏やかなれと禱れるわれは

大石久美

トランプ氏の大統領就任式は二月二十日だったが、映像は連日。波乱や大きな変化が予想される情況下、作者の禱り（の思い）は、共有できる。われはまた高齢で、不具合を抱えてもいる。

東京歌会（第五十三回）

三月十六日（木）、会場・文京シビックセンター三階A会議室。詠草は各二首十二首。出席者四名（市川茂子、小野澤繁雄、林博子、丸山弘子）。

撫で仏なでいるままに手の多くおとめの手にも触れているかな

小野澤繁雄

撫で仏は、パワースポットになっているようなところ、女子にはとくに人気ともいう。面白
い歌になった。三句、手の多く、の位置はうごくかもしれない、と。

梅の木に小鳥来てをりその名を知りたきものを止まりてくれよ

中川禮子

普通、梅の木とのとりあわせでは鶯だが、この小鳥は、メジロだろう、と。首をつつこんで
花芯の蜜を吸う。つれだってくる。視野の中にある小鳥に、止まりてくれよ、は、名のみか、
一種関わりをもとめている気持ちがある。

コピペして作った住所録なればどこでどうして間違へしか謎

布宮慈子

コピペはコピーペースト。当人たちに確認済みのもの、をコピペしてつくったものなのに。
あるいは、メールなどで受けとった住所をそのままペーストしてつくったものなのに。キチン
とかたちになっている。

UFOか恐竜の卵かドーム球場祭祭と春なり翔びたつるべし

林 博子

都市の景観としてもドーム球場はいかにも異観。卵が孵化するイメージは、また春の歌に
なっている。遊んでいる。

おしゃれして出で来し彼女自転車を預けて駅へその先問わず

市川茂子

自転車を預かるほどの近しさ。彼女と対になるいいかたは彼。おしゃれして、がいい。お
よそ遠慮して聞くことはしなかった。その間柄もしれる。結句はやや硬く、その先聞かず、
らいでいい、と。

あたたかき啓蟄の日よ雀らに残しおきたる飯を蒔きやる

丸山弘子

飯は、いいと読みたい。啓蟄を待っていた気分もある。その日はあたたかい日になった。雀
らとのやりとりにもあるのは生活のかたち。なだらかに詠まれた。

東京歌会（第五十四回）

四月二十日（木）、会場・文京シビックセンター三階C会議室。詠草は各一首十二首。出席者五名（市川茂子、小野澤繁雄、林博子、松井淑子、丸山弘子）。

水の面の花びらをみるもよしというこれは南さん東京の桜

小野澤繁雄

水の面の。南さんは土日の朝のNHKお天気キャスターで、独特の味がある。東京では大体花が終わっていて、したがって地域限定のコメントになる。花筏というコトバがある。

なんとまあ自信過剰の男なり ドナルド・キーン の『石川啄木』

布宮慈子

この評伝は、昨年（啄木生誕一三〇年）に刊行されたもの。席上読んだ人はいなかったが、作者は読んで、そこからの感想が上句になった。キーンさんは、啄木を、ともだちにはなれないが面白い人と云っている。女性の眼ということもある。

配付され三叉路に咲く一本の「プリンセス雅」花の色濃し

丸山弘子

プリンセス雅はみなしらないという。配付され、何か説明されていない感じ。町内会で

配ったもの。プリンセス雅、は皇太子妃雅子さまの成婚記念の平成五年に新種登録された桜で、花色は、歌の通りに濃いようだ。桜だとわかったほうがいいということになった。ちなみにプリンセス雅子、はバラの品種。

喧騒はここに届かず千鳥ヶ淵戦没者墓苑の玉砂利を踏む

林 博子

この戦没者墓苑の所在が話題になった。靖国神社に比べて余り人がいていないようだ。喧騒はここに届かず、にもそういったことはしれる。ウェッブでは花がいろいろ紹介されている。たまたま気付いてお参りすることになったという。歌には空気感が出ている。

火口より出でし蒸気の流れくる大涌谷に黒卵買う

市川茂子

大涌谷が丁寧に描写されている。定番の黒卵を買った。縁起ものでもある。数と賞味期限の関係で、卵漬けの状態となったことは、同時エッセイにみえる。近所の母娘と三人の旅だったという。足取りのわかる歌でもある。

常のごと上野の駅はわれを止む由一の「鮭」の目を見むと来し

中川禮子

上野の駅が誘うものは何だろう。公園口の歌が同時の歌。一つの楽しさだろうか。「鮭」の絵は東京藝大大学美術館にあって、高橋由一展が二〇一二年に催されている。「鮭」のその目を見むといったところが独自で、何かつよい思いがうかがわれる。